



関連業界

- 12 GAFAM
- 15 中国(世界)
- 24 システム
- 33 自動車(世)
- 36 2輪車
- 70 化学

業界
天気予想



25年度後半



26年度

外資呼び込んで製造業振興に注力。「経済の自立化」が課題

インド経済の長年の課題は、モディ首相が推進する「Make in India」だ。雇用創出力のある製造業を発展させて貧困層をなくし、国の底上げを図る。製造業がインドのGDP（国内総生産）に占める割合は14%で、中国の3割に遠く及ばない。就業者の6割を占める農業の生産性も低い。GDPは世界5位まで上がってきたが、1人当たりでは中国の5分の1程度にとどまる。

政府の2025年度の実質GDP成長率見通しは6・5%だが、増え続ける若者の失業者を救うには8%以上が必要となる。景気を刺激するため、インド準備銀行（中央銀行）は25年6月、政策金利を6%から5・5%へ大幅に引き下げた。

トランプ関税による世界景気の悪化に備えるものだが、メリットも享受している。売り先に困っていたロシア産の原油を安く買い、精製してEUに輸出する。従来、

中東からの原油輸入が中心だったが、今年年間輸入額の半分近くがロシア産原油になり、貿易収支の改善が進んだ。

また、米国向けiPhoneの大半を中国で組み立てているアップルは、26年末までにインドからの調達に切り替えるとしている。しかし、EV生産に必要な希土類や部材は中国頼りだ。

いかにして脱中国を進め、モディ首相が標榜する「自立したインド」実現のために外資を呼び込んで製造業を拡大させるかが、カギを握る。

（インド・ビジネス・センター社長 島田 幸）